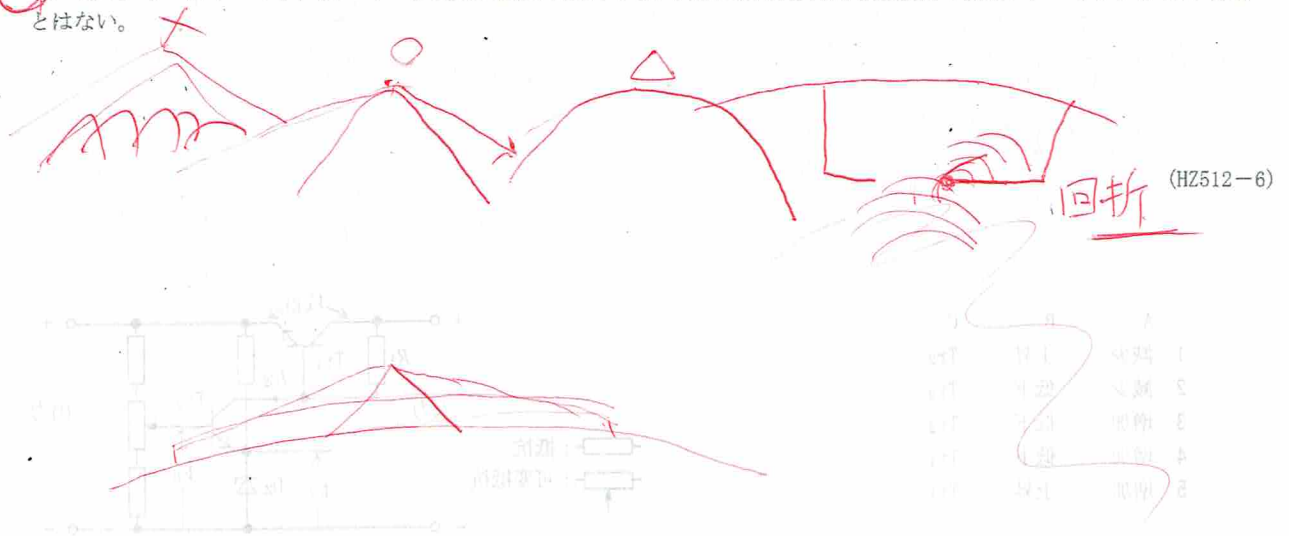


A - 23 次の記述は、超短波 (VHF) 帯及び極超短波 (UHF) 帯の電波における山岳回折による伝搬について述べたものである。このうち誤っているものを下の番号から選べ。ただし、山岳は波長に比べて十分高く、その頂部が送信点及び受信点から見通せるものとする。また、大地は球面大地とする。

- 1 見通し外伝搬において、伝搬路上に山岳があり、その山岳の尾根の厚みが波長に比べて薄く、かつ、完全導体とみなせるような場合には、山岳回折波の電界強度は、山岳がないときの球面大地回折波より高くなることもある。○
- 2 一般に、送信点と受信点の間に電波の通路をさえぎる山が複数ある場合の回折損は、孤立した一つの山がある場合よりも大きくなるので、電波の減衰が多い。○
- 3 山岳利得 (山岳回折利得) は、山岳回折による伝搬によって受信される電波の電界強度が、山岳がない場合に受信される電波の電界強度に比べてどれだけ高くなるかを表す。○
- 4 見通し外伝搬において、山岳がない場合の球面大地による回折損は、一般に送信点と受信点の間に山岳がある場合の回折損よりも大きい。○
- 5 山頂に多くの樹木があり、茂っている枝葉が強風で揺れても、山岳回折波を利用した受信の際にフェージングが生ずることはない。○



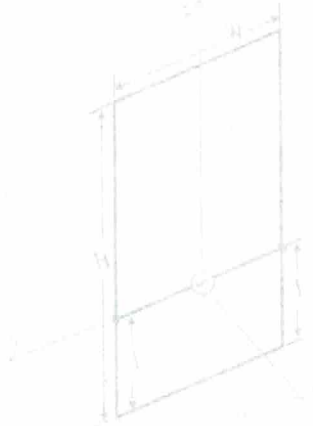
18 - A

1  
2  
3  
4  
5

19 - A

20 - A

20 - A



1  
2  
3  
4

○  
●